

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	神埼市立千代田西部小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による研究授業、事後の研究協議会を行い、校内研究を核とした「わかる」「できる」を実感できる授業づくりが着実に進んでいる。しかしながら、学力状況調査などからは、その成果を実感するまでには至っていない。今後も徹底した基礎基本の習得と家庭学習の充実に注力し、学力向上を目指す必要がある。</li> <li>・落ち着いた生活態度や学習環境の改善が図られ、高学年を中心に児童自らの規範意識が醸成されつつある。それに伴い、高学年をモデルとした下学年への継承を教職員が意図的に行い、更なる自立をうながす。</li> </ul>
2 学校教育目標	「豊かな心をもち 個性に富み 逞しく生きる」児童の育成 ～自分を愛し、友だちを愛し、学校・地域を愛する西部小の子～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究を核とした、児童同士がつながり学び合う授業づくりを推進し、学力向上を図る。</li> <li>・各行事等において、教師のコーディネートによる児童を中心とした主体的な運営の継続と継承を推進する。</li> <li>・教職員の共通理解、共通実践に基づく、統一感のある指導体制の維持し、強化する。</li> <li>・一人一台端末(児童用タブレット)の効果的な活用を推進し、家庭学習の充実に図る。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示した【共通実践】の成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間で【共通実践】を共有する。 ・授業づくりのステップ1・2・3を活用し自己評価を行い授業改善を図る。							<学び部> ・学力向上コーディネーター
	○陰山メソッドによる徹底反復学習による基礎的学習の定着	○百ます計算のひき算で学年目標達成率80%以上 ○当該年度の漢字習得率80%以上	・週3回の陰山メソッドによるスキルタイムの実施。 ・家庭学習でも計算の反復練習に取り組む。 ・スキル参加を行い、教職員間での共通理解と児童の意欲向上を図る。							<学び部>
	○「わかる」「できる」を実感できる授業づくりの推進	○アンケートにて「授業で学習したことがわかる」と回答した児童80%以上 ○算数科での単元テスト、知識・技能の観点においての得点率80%以上 ○家庭での学習時間において学年目標達成率80%以上	・全員研究授業による実践の共有化 ・授業と連動した家庭学習の充実に図る。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権に関するアンケートにて肯定的な回答をした児童85%以上 ○ふれあい道徳の実施率100%	・平和集会及び人権集会の実施 ・児童会活動を主体とした活動の推進 ・児童アンケートの実施 ・道徳の公開授業(ふれあい道徳)の実施							<心づくり部> ・人権・同和担当 ・道徳教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケートにていじめ防止・対応について、組織的な対応ができていると回答した教員90%以上以上	・毎月心のアンケートまたは、いじめアンケートを実施 ・アンケートと連動した担任や管理職及びSC等と連携した児童との関りの推進 ・教育相談全体会を月に一度実施 ・ケース会議(随時)							<心づくり部> ・教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学習や学校行事等において、個々の目標をもたせ、振り返りをもとに次の活動への意欲をもたせる。 ・キャリアサポートの活用							
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)を目指す ○怪我等による保健室来室者5%減 ○自転車のヘルメット着用率100% ○防犯ブザーの所持率100%	・登下校の合言葉を作成したり、地区児童会、登校班長会を実施したりして、児童の安全意識の向上を図る。 ・保健だよりを発行したり、各学級で正しい運動場での遊び方を指導したりして、怪我の予防を呼びかける。 ・毎月、ヘルメット着用や防犯ブザーの所持状況を調査して、通信等で保護者への啓発を行う。							<体づくり部> ・安全指導担当 ・養護教諭 ・給食担当
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●食に関するアンケートにて、「朝ご飯を毎日食べている」「苦手なものでも食べようとしている」と回答した児童80%以上	・食に関するアンケートを行うことで、食に関する自己意識の振り返りを行ったり、生活改善の機会を設けたりする。 ・給食委員会を中心に、給食集会や給食残菜0(ゼロ)週間を設定することで、児童の食への関心の向上を図る。							<体づくり部>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○職員全体の時間外在校時間平均35時間以下	・定時退勤日の設定 ・共通理解、共通実践を可能にする掲示板的活用 ・会議資料等に所要時間の予定時刻を明記 ・出退勤記録の時間外在校等時間が30時間を超えると黄色、40時間を超えると赤色に変わり、視覚的に時間削減への意識を促す。							教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する理解が深まったと回答した教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・情報共有の場を作り、個々に応じた支援の在り方を確認し、日々の指導や支援に生かす。							特別支援教育主任 特別支援教育コーディネーター 特別支援教室担任
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○児童が自立から自走する集団へ向かうための教育の推進	○きまりやルールを守り、自分で考えて行動できる児童の育成	○アンケートにて「きまりやルールを守ることができる」と回答した児童80%以上 ○協力・助け合いながら楽しく活動に取り組む児童の割合80%以上	・教員が学習面、生活面のきまりやルールを共有し、指導に関する共通実践の徹底と継続を図る。 ・学校行事等で、教師が児童の役割を意図的にコーディネートする。							
○教職員の資質向上、授業力向上	○指導力・実践力の向上	○教職員の資質能力の向上に資する職員研修の実施 ○授業力が向上したと感じている教員90%以上	・授業研究会を中心とした校内研究の充実 ・服務、学習指導、特別支援教育に関する研修の実施							
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育										
5 総合評価・ 次年度への展望										